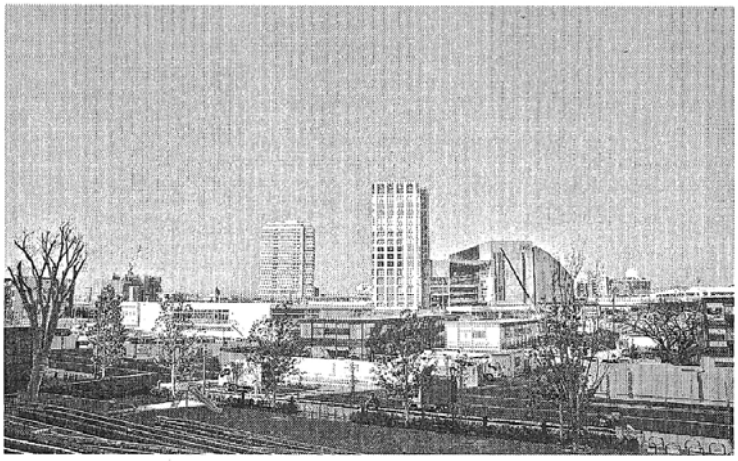
日刊建設工業新聞
2011.2.17

二子玉川を知的産業の創造拠点に

コンソーシアムの7WGが活動

シンポ・イベント オープンラボも



「にこたま」の愛称で知られる東京都世田谷区の二子玉川地区。このエリアをモデルに、デザインやIT関連、芸術分野などの個人・企業の集積を図り、新たなワークスタイルやライフスタイルを創出しようという取り組みが展開されている。昨年8月に民間企業が集まり設立した「クリエイティブ・シティ・コンソーシアム」（会長・小宮山宏三菱総合研究所理事長）は、参加企業の持つノウハウを生かしたワーキンググループ（WG）での具体的な検討を進めているほか、シンポジウムの開催などさまざまな活動を推進。東京・大手町や丸の内とは違うコンセプトを掲げ、新たな産業集積・情報発信拠点の実現を目指す。

（編集部・沢口誠）

クローズアップ

同コンソーシアムは、三菱総合研究所、コクヨファニチャー、東京急行電鉄、東京電力、日本IBM、NTTの6社を幹事に発足。現在は法人会員52社、学術会員10人、後援会員9者が名を連ねる。発足以来、WGによるプロジェクトデザインの研究や全会員の交流会、非会員や地域住民などにも開かれた交流創発活動などを展開している。

モデル地区は、東急田園都市線の二子玉川駅から東急大井町線の上野毛、等々力、尾山台、九品仏、自由が丘、東急東横線の田園調布、多摩川の各駅に囲まれた縦約4キロ、横約2キロのエリア。都心に近いながらも自然が豊かで、住民には高所得層が比較的多い地域だ。二子玉川駅周辺では現在、都内でも最大規模の再開発事業が進んでいる＝写真。将来、商業・業務・住宅などの集積が見込めることなどから、新たな都市像を描くのにふさわしいモデル地区になると判断した。

◎～◎

具体的な将来像としてはクリエーターやイノベーターが集まる街をイメージしている。大企業や工場などを誘致するのではなく文化やアート、デザイン、企画などの知や才能を集めて新しいビジネスに結び付けるという発想だ。

同コンソーシアムの副会長を務める松島克守東大名誉教授は「六本木ヒルズや東京ミッドタウンなどのように、職住近接で緑地や文化・芸術関連の施設なども整備する都市開発手法もあるが、二子玉川では、インフラなどのハード整備を重視するのではなく、文化や技術などの蓄積を通して、個人・地域・企業が協力した新たな産業モデルの構築を目指す」と古くからの住民も多いこの地区の街づくりの特色を説明する。コンセプトは、ビジネスや生活、学び、遊び、憩い、買い物など東京のうまみを凝縮した誰もが住みたくなる街。都心の丸の内や大手町、銀座などを超える拠点創出に意欲を見せる。

◎～◎

現在活動中のWGは、▽フューチャーワーク（リーダー・コクヨファニチャー）＝新しいワークスタイルの研究▽スマートシティ（同・日本IBM）＝スマートな都市サービス研究▽ネクストメディア（同・NTT）＝次世代メディア・ネットワーク研究▽位置情報サービス（同・慶応大学）＝屋内外シームレスな位置情報サービス実証▽スマートライフ（同・富士通）＝生活・健康情報活用サービスの実験▽タッチ・コミュニティ（同・シナジーメディア）＝ICカード活用のコミュニティ創造▽次世代環境（同・日建設計）＝環境に優しい都市研究―の7グループ。今後、さらに新たなテーマでWGを立ち上げる方針だ。

このほかコンソーシアムの活動拠点として、二子玉川再開発事業のIIa街区「二子玉川ライズ」のオフィス8階フロアの一部に「（仮称）カタリストフロア」（4月オープン予定）を開設し、人材の交流・実験の場として開放する計画だ。

◎～◎

「クリエイティブ・シティ」の名称は一般的に使われているが、個々のケースによって意味するものに違いがあるという。横浜市でも「クリエイティブシティ・ヨコハマ」と名付けて文化創造都市づくりを進めているが、対象はアーティストやクリエーターなど芸術関連がメーン。一方、同コンソーシアムではエリア内で生活する住民を第一義に、商業・業務・居住施設が一体となった持続的に成長できる街を想定している。

松島副会長は「横浜市などは官が中心だが、二子玉川のケースは民間主導。全国的にも例は少ないと思う」と目標を共有する企業による自発的取り組みであることを強調する。

同コンソーシアムは今後もWGでの活動だけでなく、シンポジウムやオープンラボ、イベントなどを開催していくほか、今年から14年にかけてプランを具体化する予定だ。松島副会長は「理想像を求めるだけではなく、実際にビジネスとして成り立たせることが重要だ。欧州の古い都市では小規模でも文化や芸術が根付き、住民の生活に密着している街がある。二子玉川にもそんな価値を持った街を創出したい」と話している。

大手町、丸の内を超える街目指す

クリエイティブ・シティ・コンソーシアム設立総会

設立総会で手を組む小宮山会長（右から4人目）、松島副会長（右から5人目）